お客様メモ

後日のために記入しておいてください。

購入店名：　　　　　　　　　　　　電話

ご購入年月日：昭和　　年　　月　　日

ーメモー

日立家電販賣株式會社
〒105 東京都港区西新橋2−15−12
電話（03）502−2111

株式會社日立製作所
〒105 東京都港区西新橋2−15−12
電話（03）502−2111

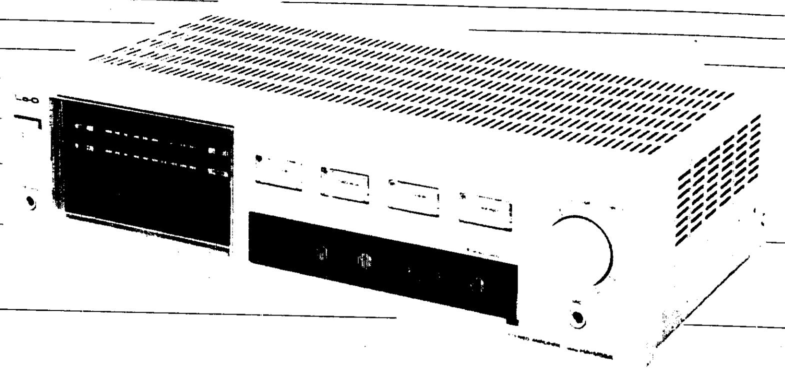
Printed in Japan (H) 4942311

HI-FI COMPONENT

プリメインアンプ

形名

HA-M50A



取扱説明書

この取扱説明書は、プリメインアンプの取り扱いの他に、チューナー、プレーヤー、カセットデッキ、グラフィックイコライザーを組み合わせたステレオシステムの基本的な使い方も説明してあります。プリメインアンプ以外の機器の詳しい取り扱いについては、各機器の取扱説明書をご覧ください。

Lo-D

■ごあいさつ

このたびはLo-Dプリメインアンプをお求めいただき、まことにありがとうございました。この「取扱説明書」をよくお読みいただき、正しくご使用ください。
なお、お読みになった後は保証書、ご相談窓口一覧表とともに大切に保存してください。

■ステレオ音のエチケット

楽しい音楽も時と場所によっては気になるものです。隣り近所への配慮(おもいやり)を十分にいたしましょう。ステレオの音量はあなたの心がけ次第で大きくも小さくもなります。
特に静かな夜間には小さな音でも通りやすいものです。夜間の音楽鑑賞には特に気を配りましょう。
窓を締めたり、ヘッドホンをご使用になるのも一つの方法です。お互いに心を配り、快い生活環境を守りましょう。

■目次

特長……2
特に注意していただきたいこと……3
ご注意……3
接続方法……4
各部の名称とはたらき……6
取り扱い方法
　レコード演奏……10
　ラジオ(FM/AM)放送の受信……10
　DAD/AUX 接続機器の再生……11
　テープ演奏(再生)……11
　レコードの自動録音……12
　録音の一時停止……12
　録音の停止……12
　放送(FM/AM)の録音……13
　DAD/AUX 接続機器の録音……13
　マイクミキシング……14
　ミキシング録音……14
　留守録音……15
　タイマー再生(目覚まし再生)……15
　D-W700の操作……15
　ご使用上の注意……16
保護回路について……16
故障かな？と考える前に……17
仕様……19
アフターサービスと保証……19

特長

(ワンタッチ集中指令システムとしての特長も含まれます。)

●操作の簡単なワンタッチ集中指令システム
ワンタッチ集中指令対応のプレーヤー、チューナー、カセットデッキと組み合わせて、聴きたいプログラムソースの機器を操作すると、自動的にファンクションが切り換わり、演奏を開始するワンタッチシステムに加え、アンプのファンクションボタン(集中指令ボタン)の操作でプレーヤー、チューナー、カセットデッキの動作を開始させることができる集中指令システムを合わせたワンタッチ集中指令システムです。

●大形のワンタッチ集中指令ボタン
集中指令用ソフトタッチスイッチとファンクションインジケーターが一体になった新方式のファンクションボタン(集中指令ボタン)です。ソースおよびテープ再生時は緑色、テープ録音時にはテープのボタンが赤色に変わり、機器の動作を一目で確認できるインジケーターです。

●レコード演奏の次のプログラムソースを予約できるプログラム予約ファンクション
レコード演奏終了後、次に聴きたいソースをレコード演奏開始時に予約しておき、レコードの次に放送あるいはテープ再生などの組み合わせでロングプレイができます。

●レコードの自動録音
レコードを録音するときは、あらかじめカセットデッキを録音一時停止状態にセットしておき、ファンクションボタン(集中指令ボタン)を操作すると、レコードの最初から録音が始まりレコードが終わると録音が停止する自動録音ができます。

●PHONOミューティング機能
レコードプレーヤーの針が盤面に降りるときのショック音を消すPHONOミューティング回路を内蔵しており、自動演奏、手動演奏に関係なく、不快なショック音のないレコード鑑賞ができます。

●60W＋60Wの大出力アンプ
大出力60W＋60Wのアンプで、余裕のある音楽再生ができます。

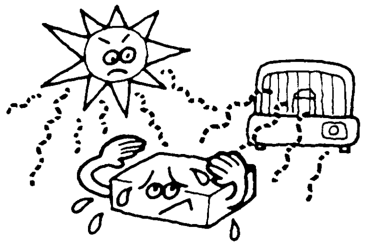
●マイクミキシング回路付
ALC付マイクロホンアンプを内蔵しておりますから、他のソースとのミキシングができます。またALC(自動レベル調整回路)によりマイクロホンに大きな音が入ってもひずみの少ない音をミキシングできます。

●パワーレベルインジケーター
LEDによるバー表示のパワーレベルインジケーターは、音楽のリズム感にマッチしたダイナミックな表示が楽しめます。

●シーリングパネル方式によるシンプルなデザイン
通常使用することの少ないつまみ類は、シーリングパネル内に納め、誤操作を防止するとともにシンプルなデザインにまとめています。

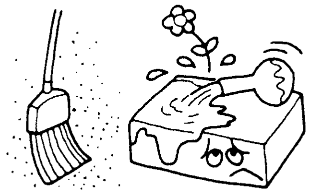
特に注意していただきたいこと

●高温は故障の原因



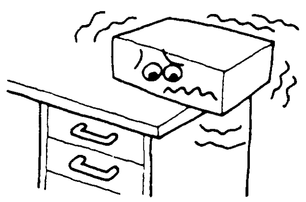
直射日光のあたる場所やストーブのような熱器具の近くで使用すると、ケースや部品に悪い影響を与えます。

●湿気・ほこり・水気は禁物



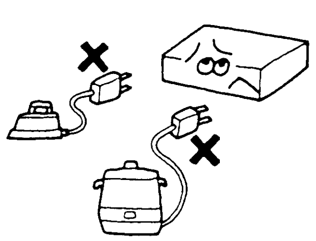
湿気やほこりの少ないところで使用してください。
また、内部に水が入ると感電したり、故障の原因になります。

●振動の少ない安定した場所に設置



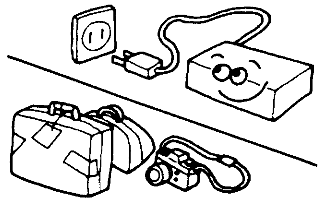
不安定な場所に設置すると落下する危険があります。
また、振動が多いと故障したり、性能が十分発揮できないことがあります。

●補助電源コンセントは消費電力に注意



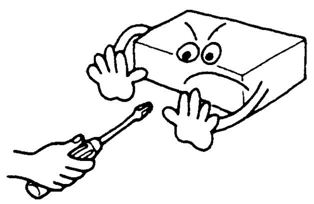
オーディオ機器を接続するためのコンセントです。消費電力が本機の表示以上の機器は接続しないでください。

●長期間ご使用にならないとき



万一の事故を防ぐため、旅行などで長い間使用しないときは、電源プラグをコンセントから抜いてください。

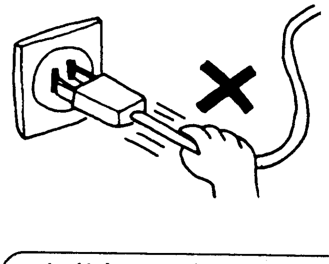
●ケースは絶対に開けない



ケースを開けて内部に触れたり、ケースの通風孔から内部に金属物を入れますと感電したり、故障の原因になります。

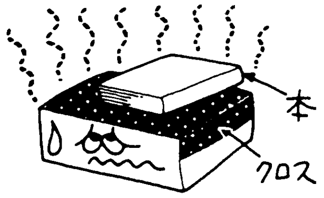
ご注意

●電源コードは大切に



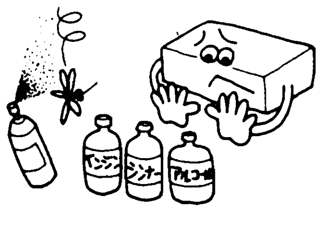
電源コードは、必ずプラグを持って抜いてください。
また、傷がついた電源コードを使うと危険です。

●放熱効果を良くしてください



ケースや底板の通風孔をふさぐと放熱が悪くなり、故障の原因になります。

●殺虫剤、化学ぞうきんなどに注意



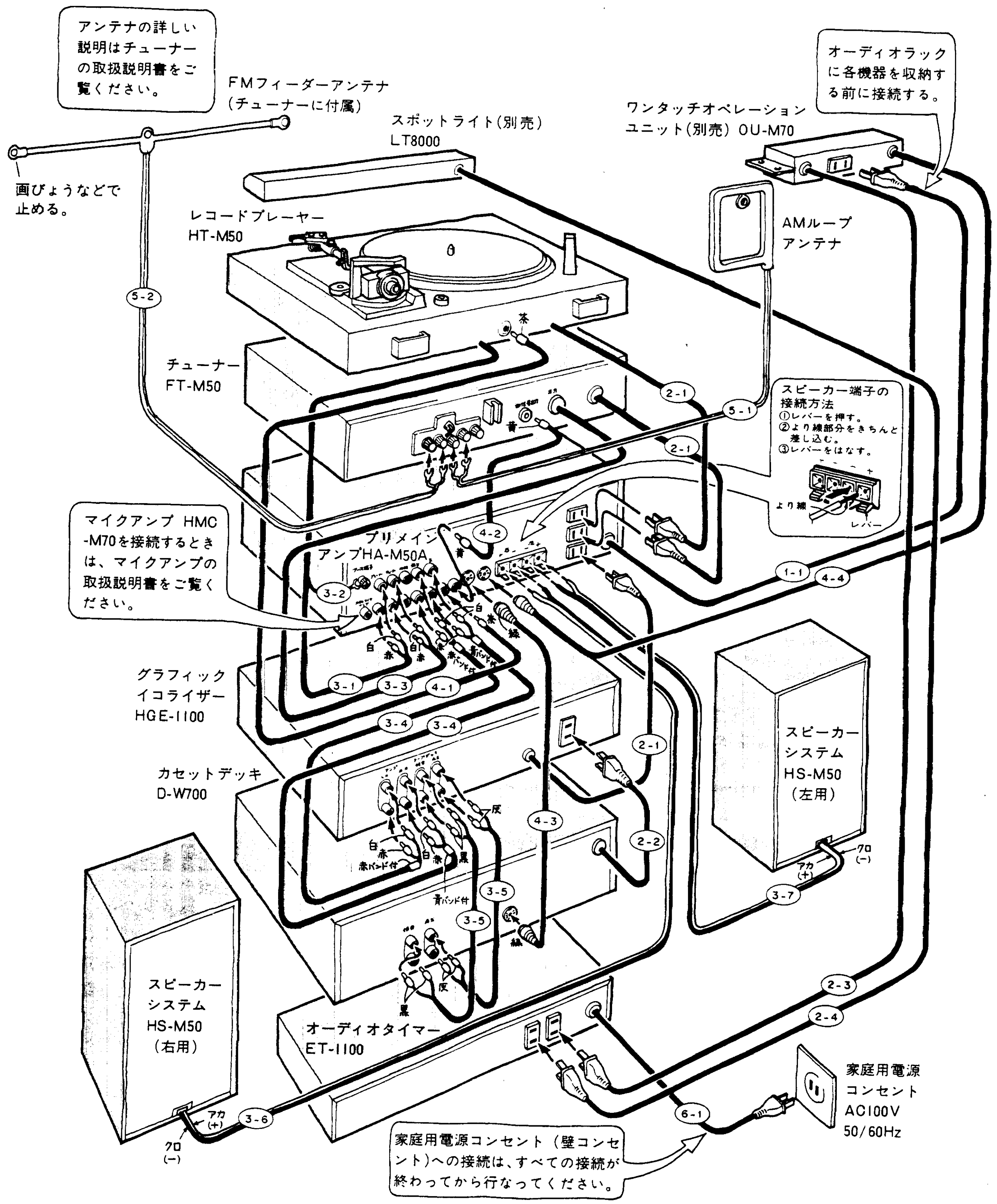
殺虫剤、ベンジン、シンナー、アルコールなどをつけたり、化学ぞうきんでふくと塗装がはがれたり変色することがあります。

接続方法

★本図は次の機種を組み合わせたときの接続例です。

●プリメインアンプ	HA-M50A	●カセットデッキ	D-W700
●チューナー	FT-M50	●ワンタッチオペレーションユニット	OU-M70
●プレーヤー	HT-M50	●オーディオタイマー	ET-1100
●スピーカーシステム	HS-M50	●スポットライト	LT8000
●グラフィックイコライザー	HGE-1100		

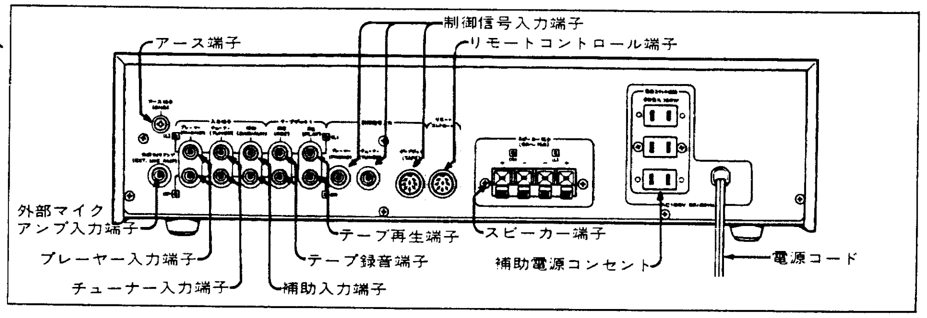
●図中の番号は次ページの接続手順を示します。



ワンタッチ集中指令対応機器　チューナー：FT-M50 / FT-M30　プレーヤー：HT-M50 / HT-M20　カセットデッキ：D-W700 / D-M30

■接続上のご注意

- **●家庭用電源コンセントへの接続は、すべての接続が終わってから最後に行なってください。**
- **●各機器の入出力コードの接続や取りはずしを行うときは、各機器の電源スイッチを切ってください。**
- **●接続は、右（R）、左（L）をよく確かめて確実に接続してください。**
- **●ピンプラグは奥まできちんと差し込まないと接続不良を起こしやすいので注意してください。**



1. アンプの電源コードの接続

(1-1) オーディオラックに各機器を収納する前に、アンプの電源コードをワンタッチオペレーションユニット（別売り）のACアウトレットに接続します。
次に、オーディオラックの組立説明書を参照して、ワンタッチオペレーションユニットをオーディオラックに取り付け、コード類をオーディオラックに固定します。その後、すべての機器をオーディオラックに収納してください。

2. 電源コードの接続

(2-1) チューナー、プレーヤー、グラフィックイコライザーの電源コードをアンプの補助電源コンセントに接続します。

(2-2) カセットデッキの電源コードをグラフィックイコライザーの補助電源コンセントに接続します。

(2-3) ワンタッチオペレーションユニットの電源コードをオーディオタイマーに接続します。

(2-4) スポットライトの電源コードをオーディオタイマーに接続します。

3. 信号コードの接続

(3-1) プレーヤーの出力コードをアンプのプレーヤー入力端子に接続します。

(3-2) プレーヤーの出力コードについているアースコードをアンプのアース端子に接続します。

(3-3) チューナーの出力コードをアンプのチューナー入力端子に接続します。

(3-4) グラフィックイコライザーに付属の接続コードでグラフィックイコライザーのアンプ入力端子とアンプのテープ録音端子（赤色バンド付コード）、アンプ出力端子とテープ再生端子（青色バンド付コード）を各々接続します。

(3-5) カセットデッキに付属の接続コードでカセットデッキの録音端子とグラフィックイコライザーのテープ録音端子（プラグが黒色のコード）、再生端子とテープ再生端子（プラグが灰色のコード）を各々接続します。

(3-6) 前面から見て右側のスピーカーのスピーカーコードをアンプのスピーカー端子の右（R）に接続します。
赤色のコード（＋）をスピーカー端子の＋に、黒色のコード（−）を−に接続します。

(3-7) 左側のスピーカーのスピーカーコードをアンプのスピーカー端子の左（L）に接続します。

ご注意 同じスピーカー端子に、2組以上接続しないでください。

4. 制御信号コードの接続

(4-1) プレーヤーに付属の制御信号コード（プラグが茶色）で、プレーヤーの制御信号出力端子とアンプの制御信号入力端子を接続します。

(4-2) チューナーに付属の制御信号コード（プラグが黄色）で、チューナーの制御信号出力端子とアンプの制御信号入力端子を接続します。

(4-3) アンプに付属の制御信号コード（プラグが緑色）で、カセットデッキのリモートコントロールジャックとアンプの制御信号入力端子を接続します。

(4-4) ワンタッチオペレーションユニットのリモートコントロールコードをアンプのリモートコントロール端子に接続します。

5. アンテナの取り付け

(5-1) AMループアンテナをオーディオラックに取り付ける場合は、オーディオラックの組立説明書を参照して取り付け、アンテナのコードが他のコードに近づかないように、たばねておきます。

ご注意 AMループアンテナおよびそのコードに制御信号コードやスピーカーコードなどが近づかないようにしてください。なお、オーディオラックにコードクリップが付属している場合は、AMループアンテナのコード、電源コード、信号コードをそれぞれコードクリップでたばねてください。

(5-2) チューナーに付属のFMフィーダーアンテナをチューナーのアンテナ端子FM(300Ω)に接続し、T字形に張ります。

6. 家庭用電源コンセント（壁コンセント）への接続

(6-1) すべての接続が終わったら、オーディオタイマーの電源コードを家庭用電源コンセント（AC100V、50／60Hz）に接続します。

●アンプの補助電源コンセントについて

消費電力が合計150W以下でお使いください。アンプと接続した機器の電源スイッチをONにしておきますと、アンプの電源のON−OFFに連動して、接続した機器の電源もON−OFFできます。

ご注意 補助電源コンセントはオーディオ機器を接続するためのコンセントです。テレビやビデオデッキなど、他の電気器具を接続しないでください。

●補助入力端子（DAD/AUX）について

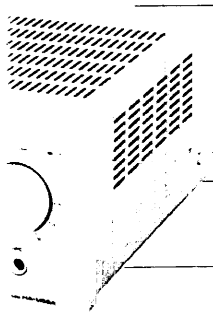
この端子は予備の入力端子です。DADプレーヤー、テレビ音声多重チューナー、再生専用のテープデッキなどが接続できます。
DAD（Digital Audio Disk：デジタル・オーディオ・ディスク）は従来のレコードにかわるもので、PCM 技術を導入した新しいソースで高品質な音楽再生が楽しめます。

●外部マイクアンプ入力端子（EXT.MIC AMP）

別売りのマイクアンプ（HMC−M70）を接続するための入力端子です。

NT

0A



デッキ、
ります。
さい。

各部の名称とはたらき

●電源スイッチ(POWER)
ON(▬)にすると電源が入り、左端のパワーレベルインジケーターが点灯します。さらにもう一度押して OFF(Π)にすると、電源が切れます。
(注)電源をON(▬)にしてから約5秒間音が出ません。これは電源を入れたときのポップノイズ(“ポッ”と言う音)を取り除くためにスピーカー保護回路が働いているためです。

●パワーレベルインジケーター(POWER LEVEL INDICATOR)
出力の大きさを表示します。

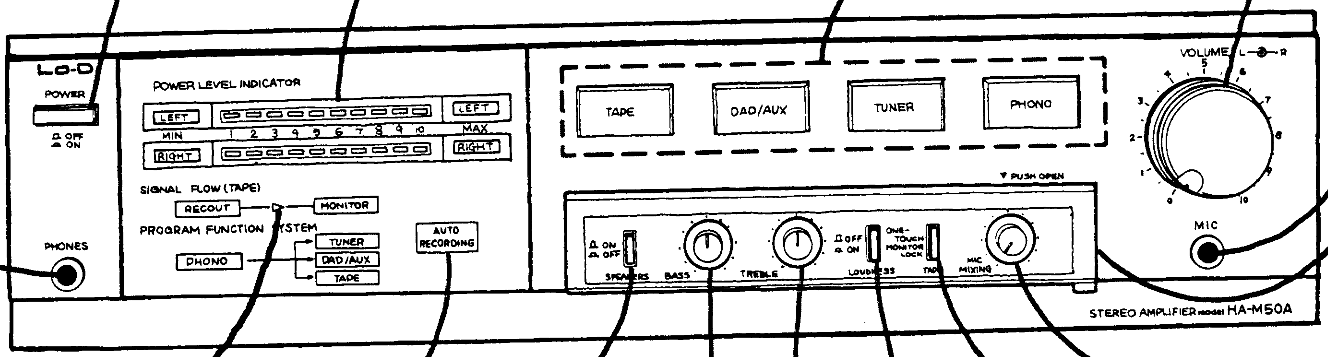
●ファンクションボタン(集中指令ボタン)
プログラムソースを選択するスイッチです。聴きたいプログラムソースのボタンを押すとボタンが点灯し、ファンクションが切り換わり、演奏(または放送)が自動的に始まります。
(注)ワンタッチ集中指令システムに対応していない機器の場合は、ファンクションが切り換わるだけで演奏は始まりません。テープ再生などの操作が必要です。

●音量調節つまみ(VOLUME)
右○に回すと音量が増します。このつまみは連動式ですから中軸(左側)、外軸(右側)のつまみが同時に動きますが、外軸のつまみを手で固定して、中軸だけを動かすと左右別々に音量調節できます。

●マイクロホンジャック(MIC)
マイクロホンのプラグを差し込みます。マイクロホンを使用しないときは、プラグを抜いておいてください。

●ヘッドホンジャック(PHONES)
ステレオヘッドホンのプラグを差し込みます。

●シーリングパネル
シーリングパネルの上側を押しますと半開きになりますので、右下の取手で上に開けてください。



●マイク音量調節つまみ(MIC MIXING)
右○に回すとマイクロホンの音量が増します。マイクロホンを使用しないときは、つまみを左○に回しきっておいてください。

●シグナルフローインジケーター(SIGNAL FLOW)
テープモニター状態のとき赤く点灯します。テープ録音端子から出た信号がカセットデッキやグラフィックイコライザーを通って再生端子に入ることを表わしています。

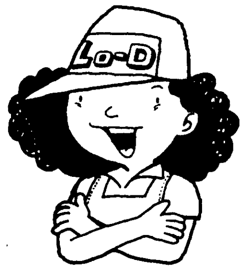
●テープスイッチ(TAPE)
テープ録音、再生端子にグラフィックイコライザーHGE-1100(別売り)を接続したときに使用します。ONE-TOUCH(Π)の位置では、テープデッキは通常のワンタッチ動作をします。MONITOR LOCK(▬)にすると、テープデッキのワンタッチ回路が切り離され、常時テープモニターONの状態になり、グラフィックイコライザーを通した音を聴くことができます。このときファンクションボタンのTAPEが緑色に点灯します。
尚、この状態のときテープデッキはワンタッチ動作をしません。
(注)テープスイッチをゆっくり操作しますと、カセットデッキが誤動作したり、アンプの表示が違うことがあります。このようなときはカセットデッキのストップボタンを押してください。

●スピーカースイッチ(SPEAKERS)
ON(Π)にしますとスピーカーから音が出ます。ヘッドホンのみで聴くときはOFF(▬)にしてください。

●ラウドネススイッチ(LOUDNESS)
音を小さくしたとき、低音・高音がものたりなく感じるのは聴感特性によるものです。これを補正するためのスイッチで、ON(▬)にすると音を小さくしたとき低音・高音が強められます。

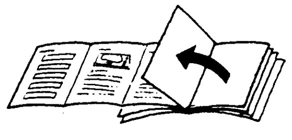
●自動録音インジケーター(AUTO RECORDING)
レコードの自動録音開始時に点灯します。

●低音調節つまみ(BASS)
低音域の特性を調節するつまみで、中央○でフラットな特性になります。右○に回すほど低音が強められ、左○に回すほど弱められます。



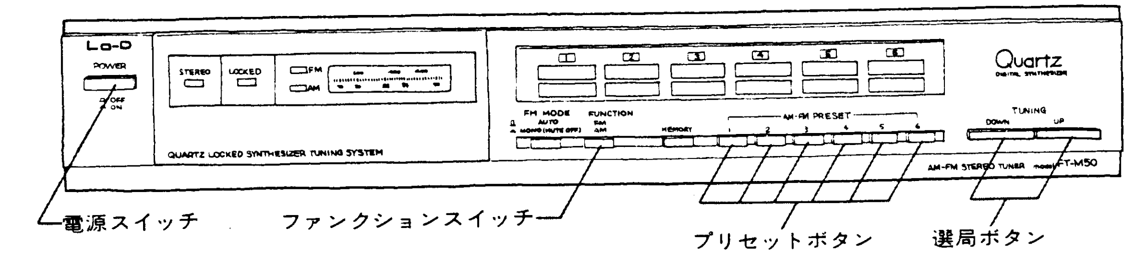
●高音調節つまみ(TREBLE)
高音域の特性を調節するつまみで、中央○でフラットな特性になります。右○に回すほど高音が強められ、左○に回すほど弱められます。

取り扱い方法

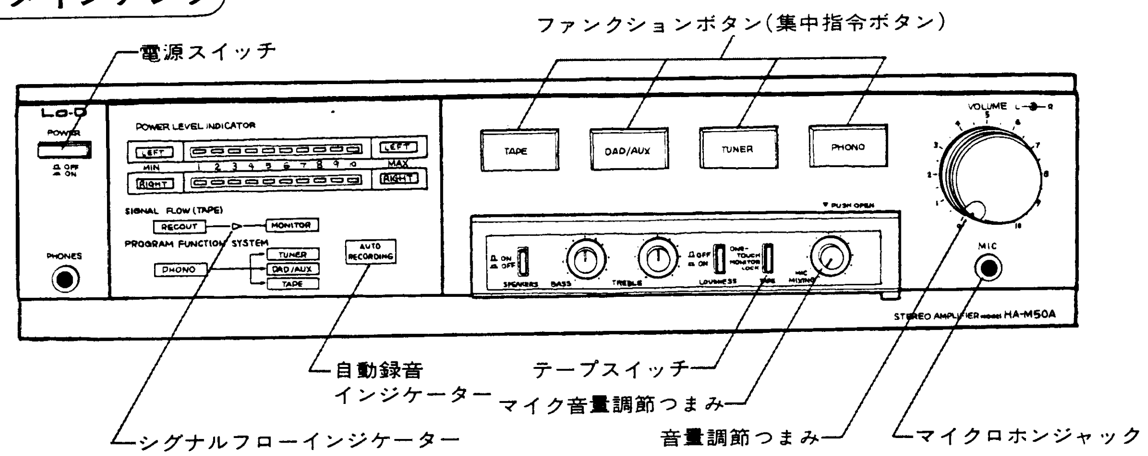


「取り扱い方法」のページは折りの部分を展開してご使用になりますと便利です。

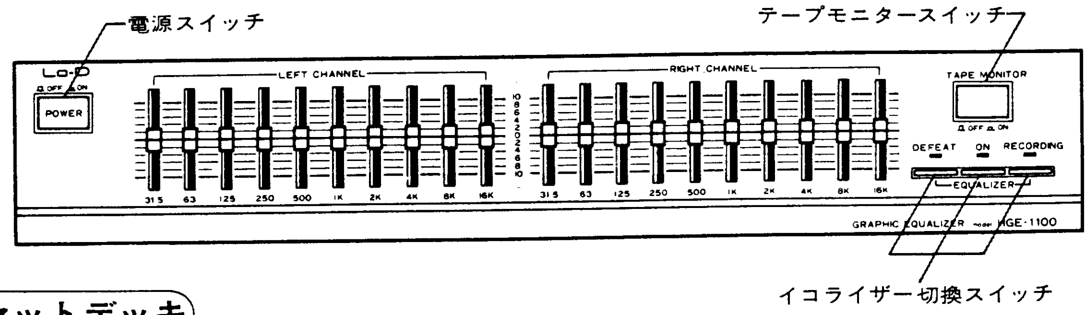
チューナー



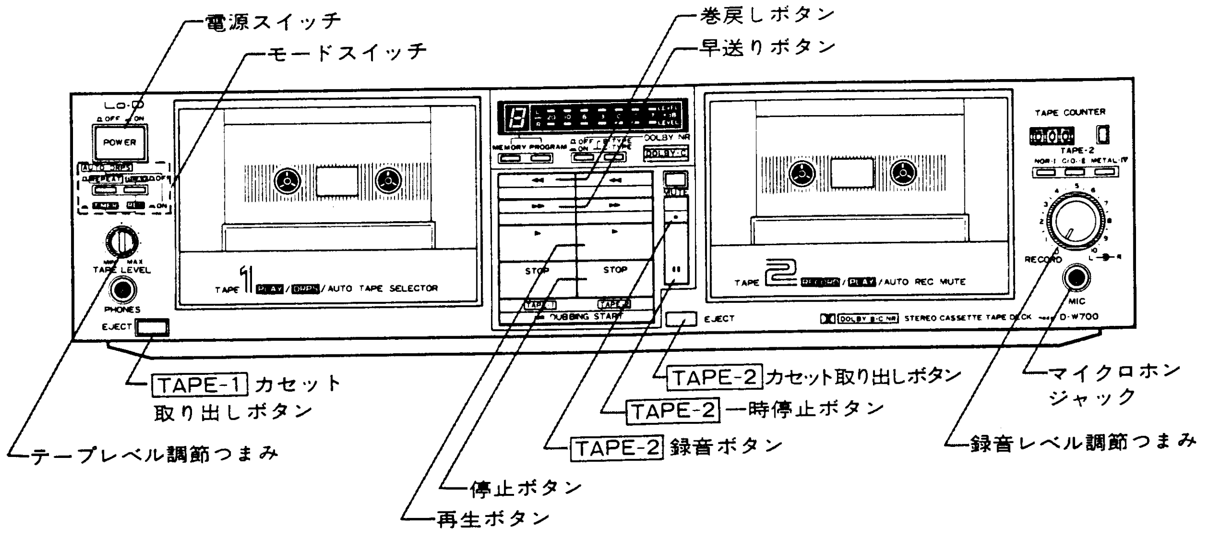
プリメインアンプ



グラフィックイコライザー

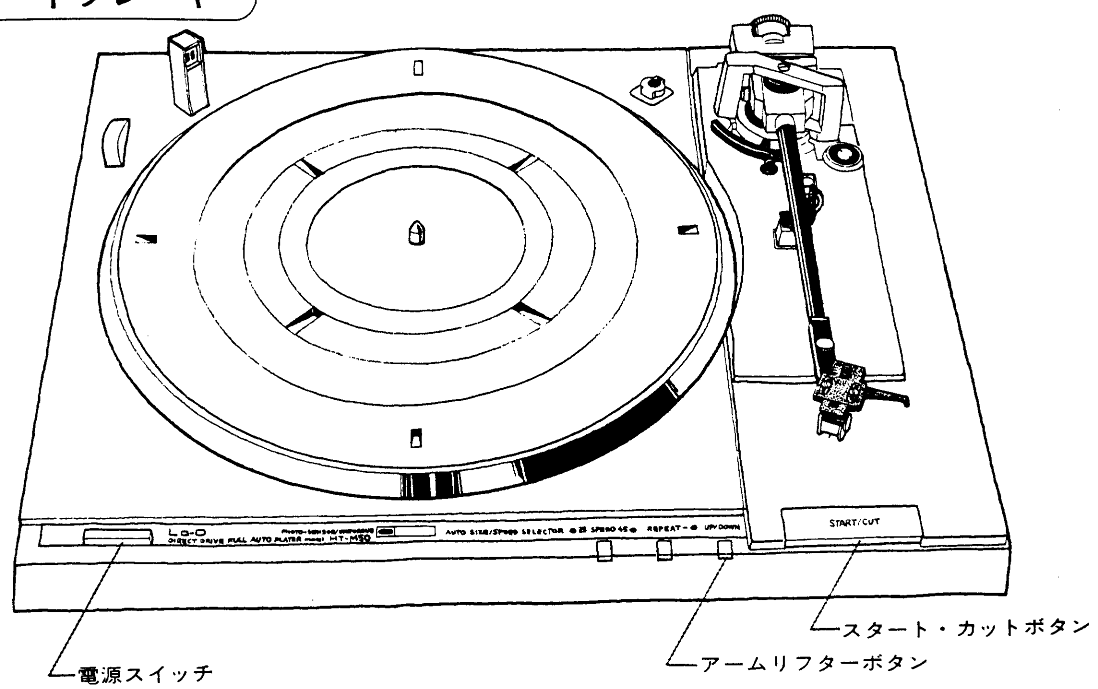


カセットデッキ

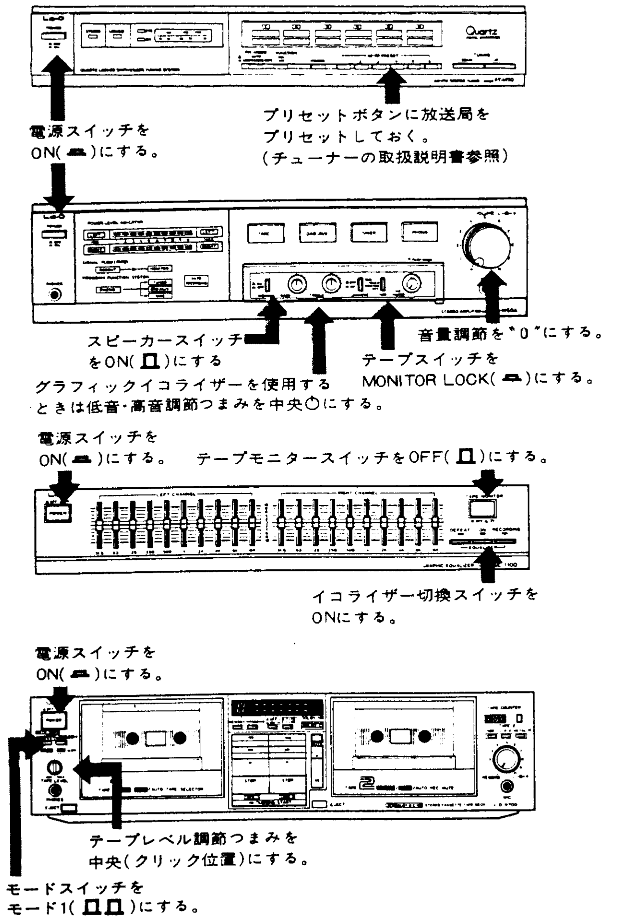


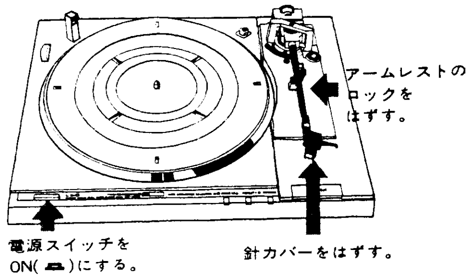
お客様メモ
後日のために記入し
購入店名：
ご購入年月日：昭
－メモ－

レコードプレーヤー



演奏前の確認





- グラフィックイコライザーを使用しないときは、アンプのテープスイッチをONE-TOUCH( )にしておいてください。
- ワンタッチオペレーションユニットやオーディオタイマーがあるときは、その電源スイッチもON( )にしてください。

――― 接続も確認してください ―――

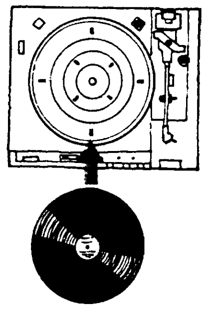
- スピーカーコードの左(L)、右(R)および極性(＋、－)は正しいですか。
- 接続コードの左(L)、右(R)は正しいですか。
- 各コードが確実に接続されていますか。

★演奏を始める前に、前ページの「演奏前の確認」を行なってください。

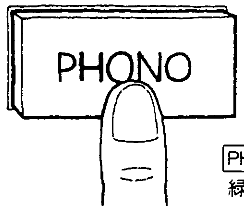
レコード演奏

グラフィックイコライザーを使用してレコード演奏を聴くときは、アンプのテープスイッチをMONITOR LOCK(▬)にします。

レコード盤をのせます。
※1



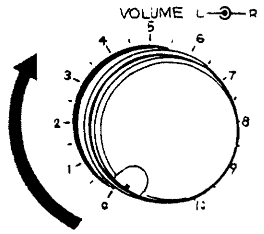
アンプのファンクションボタン PHONO を押します。
※1



PHONO が緑色に点滅します。 ※2

針がレコード盤に降りると PHONO ボタンの点滅が点灯に変わります。

アンプの音量調節つまみで音量を調節します。



グラフィックイコライザーのイコライザー調節つまみで音質調節します。

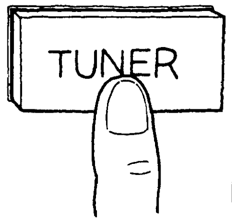
※1.レコードプレーヤーのスタート・カットボタンを押して演奏を開始することもできます。
なお、レコードプレーヤーのスタート・カットボタンを先に押したときは、アンプのファンクションは自動的に切り換わります。

- レコード演奏を途中で止めたい場合は、レコードプレーヤーのスタート・カットボタンを押します。
- レコード演奏中にアンプのファンクションをTUNER、DAD/AUX に切り換えると、レコード演奏は止まります。アンプのテープスイッチがONE-TOUCH(⊓)のときは、ファンクションをTAPEに切り換えてもレコード演奏は止まります。

ラジオ(FM/AM)放送の受信

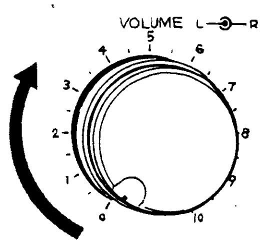
グラフィックイコライザーを使用してラジオ放送を聴くときは、アンプのテープスイッチをMONITOR LOCK(▬)にします。

アンプのファンクションボタン TUNER を押します。
※1



TUNER が緑色に点灯します。

アンプの音量調節つまみで音量を調節します。



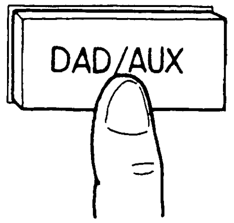
グラフィックイコライザーのイコライザー調節つまみで音質調節します。

※チューナーのファンクションスイッチ、選局ボタンを操作したとき、およびチューナーの電源スイッチをON(▬)にしたときもファンクションが TUNER に切り換わります。

DAD/AUX接続機器の再生

グラフィックイコライザーを使用してDAD/AUX接続機器の演奏を聴くときは、アンプのテープスイッチをMONITOR LOCK (▬) にします。

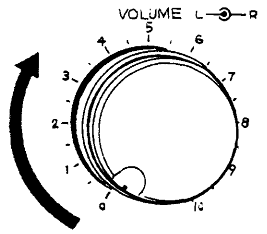
アンプのファンクションボタン DAD/AUX を押します。



DAD/AUX が緑色に点灯します。

補助入力端子(DAD/AUX)に接続した機器を操作して再生状態(または受信状態)にします。

アンプの音量調節つまみで音量を調節します。



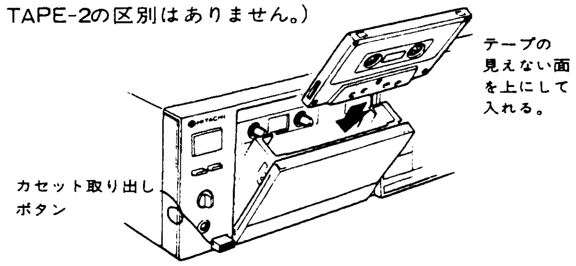
グラフィックイコライザーのイコライザー調節つまみで音質調節します。

注)補助入力端子 (DAD/AUX) に接続した機器は、アンプからの操作で演奏を開始させることはできません。また、再生中にファンクションを他に切り換えても、停止状態にはなりません。

テープ演奏 (再生)

グラフィックイコライザーを使用してテープ演奏を聴くときは、アンプのテープスイッチをMONITOR LOCK (▬)にします。

TAPE-1のカセット取り出しボタンを押し、カセットテープを入れます。(D-W700以外のカセットデッキではTAPE-1、TAPE-2の区別はありません。)



グラフィックイコライザーのテープモニタースイッチをON (▬)にします。

カセットデッキのTAPE-1側の再生ボタン (▶) を押します。

アンプの音量調節つまみで音量を調節します。

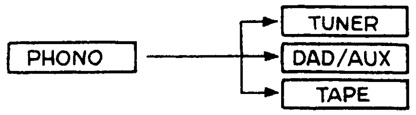
グラフィックイコライザーのイコライザー調節つまみで音質調節します。

- テープ演奏を止める場合はカセットデッキの停止ボタンを押します。

注)グラフィックイコライザーを使用しないときは、アンプのテープスイッチをONE-TOUCH (⊓)に切り換えてください。ワンタッチでカセットデッキを操作できます。
アンプのファンクションボタンのTAPEを押すと、TAPEのインジケーターが緑色に点灯しテープ演奏を開始できます。
テープ演奏中にアンプのファンクションを他に切り換えるとテープ演奏は止まります。

※2. プログラム予約ファンクション
PHONO ボタンが点滅している間に、TUNER TAPE DAD/AUX のいずれかを押しますと、レコード演奏の次のプログラムソースを予約できます。
レコード演奏が終わると、予約されたプログラムが演奏されます。
(注)テープを予約するときは、アンプのテープスイッチをONE-TOUCH(⊓)にしてください。

PROGRAM FUNCTION SYSTEM



レコードの自動録音

録音するときは、アンプのテープスイッチをONE-TOUCH(□)にします。グラフィックイコライザーを通して録音できます。 ※1

TAPE-2のカセット取り出しボタンを押し、カセットテープを入れます。(D-W700以外のカセットデッキでは、TAPE-1、TAPE-2の区別はありません。)

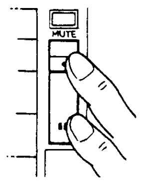
グラフィックイコライザーのイコライザー切換スイッチをRECORDINGにします。

グラフィックイコライザーのテープモニタースイッチをONにします。

レコード盤をレコードプレーヤーにのせます。

▼

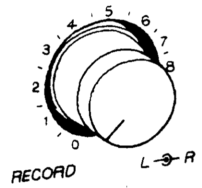
カセットデッキの録音ボタンと一時停止ボタンを同時に押します。



アンプのファンクションボタン TAPE が赤く点灯します。

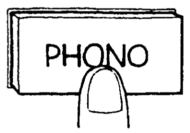
▼

カセットデッキの録音レベル調節つまみを"7"付近にします。 ※2



▼

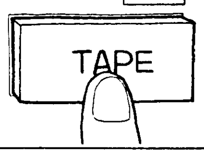
アンプのファンクションボタン PHONO を押します。



PHONO が緑色に点滅し、自動録音インジケーターが点灯します。

▼

PHONO ボタンの点滅中に TAPE ボタンを押します。



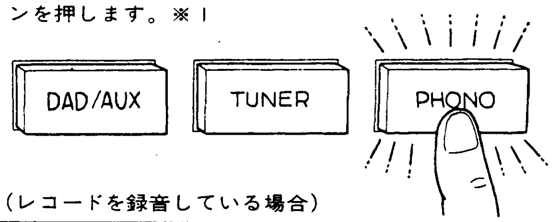
▼

自動録音インジケーターが点滅し、レコードの自動録音のスタンバイ(待機)中であることを知らせます。
点滅が終わり、自動録音インジケーターが消えると録音が始まります。

※1.アンプのテープスイッチがONE-TOUCH(□)になっていないとレコードの自動録音はできません。
※2.正確に録音レベルを調節するときは、一度レコード演奏の状態にしてカセットデッキの取扱説明書にしたがい、録音レベルを調節します。
- グラフィックイコライザーのイコライザー調節つまみは、録音開始前にあらかじめ希望の特性に合わせておきます。

録音の一時停止

録音しているプログラムソースのファンクションボタンを押します。 ※1



(レコードを録音している場合)

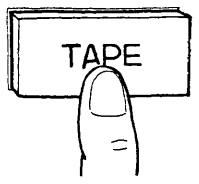
▼

録音一時停止の状態になります。

(注) 3ヘッドのカセットデッキを使用しているときは、カセットデッキのモニタースイッチがTAPE MONITORになっているとスピーカーから音が聴こえなくなります。SOURCE側に切り換えてください。

▼

再び録音を開始するときは、アンプのファンクションボタン TAPE を押します。



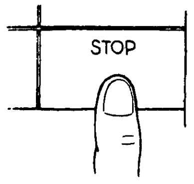
▼

録音が始まります。

※1.アンプのテープスイッチがONE-TOUCH(□)になっていないと上記操作はできません。
- カセットデッキの一時停止ボタンを押して、一時停止にすることもできます。
- カセットデッキの録音ミュートボタンを押して一時停止にすることもできます。

録音の停止

カセットデッキの停止ボタンを押します。



▼

アンプのファンクションボタン TAPE が消え、停止状態になります。

放送(FM/AM)の録音

録音するときは、アンプのテープスイッチをONE-TOUCH(□)にします。グラフィックイコライザーを通して録音できます。

TAPE-2のカセット取り出しボタンを押し、カセットテープを入れます。

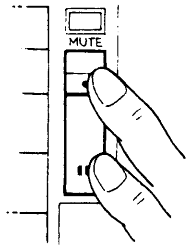
グラフィックイコライザーのイコライザー切換スイッチをRECORDINGにします。

グラフィックイコライザーのテープモニタースイッチをONにします。

FMまたはAM放送を受信します。

▼

カセットデッキの録音ボタンと一時停止ボタンを同時に押します。

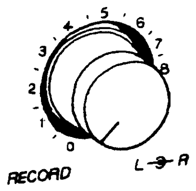


▼

アンプのファンクションボタン TAPE が赤く点灯します。

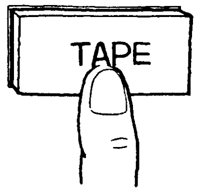
▼

カセットデッキの録音レベル調節つまみを"7"付近にします。



▼

アンプのファンクションボタン TAPE を押します。 ※1



▼

録音が始まります。

※1.カセットデッキの再生ボタン(▶)を押しても録音が始まります。

DAD/AUX接続機器の録音

録音するときは、アンプのテープスイッチをONE-TOUCH(□)にします。グラフィックイコライザーを通して録音できます。

TAPE-2のカセット取り出しボタンを押し、カセットテープを入れます。

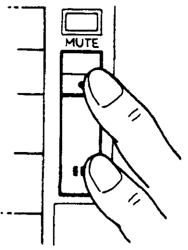
グラフィックイコライザーのイコライザー切換スイッチをRECORDINGにします。

グラフィックイコライザーのテープモニタースイッチをONにします。

DAD/AUX接続機器を再生状態(または受信状態)にします。

▼

カセットデッキの録音ボタンと一時停止ボタンを同時に押します。

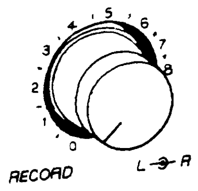


▼

アンプのファンクションボタン TAPE が赤く点灯します。

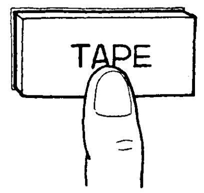
▼

カセットデッキの録音レベル調節つまみを"7"付近にします。



▼

アンプのファンクションボタン TAPE を押します。 ※1



▼

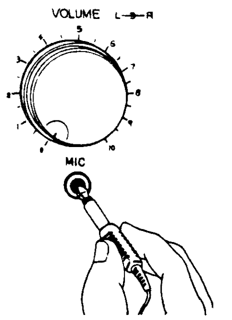
録音が始まります。

※1.カセットデッキの再生ボタン(▶)を押しても録音が始まります。

マイクミキシング

マイクミキシングした音をグラフィックイコライザーを通して聴くときは、アンプのテープスイッチを、MONITOR LOCK(▬)にし、グラフィックイコライザーのテープモニタースイッチをOFF(□)にします。※1

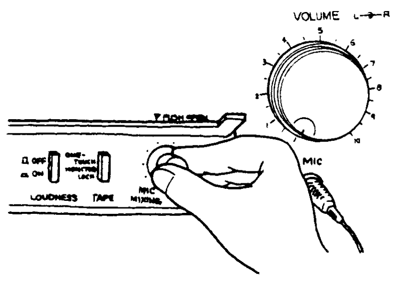
マイクロホンのプラグをアンプのマイクロホンジャックに差し込みます。



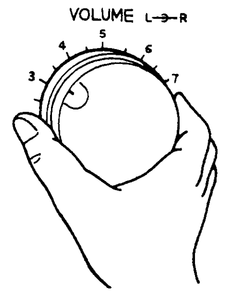
マイクロホンの手もとスイッチをONにします。

ミキシングしたいソースを演奏状態(または受信状態)にし、音量調節つまみでソースの音量を調節します。※2

マイク音量調節つまみでマイクロホンの音量を調節します。



アンプの音量調節つまみでミキシングされた音量を調節します。



※1.テープとミキシングするときは、グラフィックイコライザーのテープモニタースイッチをON(▬)にします。
※2.マイクロホンのみを使用したいときは、プレーヤーのトーンアームを手で持ってターンテーブルの上まで動かした後、アームレストに戻してください。(ファンクションが[PHONO]で、レコード演奏を行わない状態にする。)

ミキシング録音

①マイクミキシングの手順にしたがってマイクミキシングを行います。
②マイクミキシングした音をグラフィックイコライザーを通して録音するときは、アンプのテープスイッチをONE-TOUCH(□)にし、グラフィックイコライザーのテープモニタースイッチをON(▬)にします。
③カセットデッキの録音ボタンと一時停止ボタンを同時に押して録音一時停止状態にし、録音レベルを調節します。
④アンプのファンクションボタン[TAPE]を押して録音をスタートさせ、マイクミキシングを始めます。

マイクロホンのインピーダンスについて
インピーダンスが200Ω～50kΩのマイクロホンを使用してください。
なお、マイクロホンの種類によってはハウリングや音量不足を生ずることがありますので、マイク音量調節つまみで適当な音量に調節してください。

ハウリングについて
マイクロホンの音量をあまり大きくしたり、マイクロホンをスピーカーに近づけたりしますと、ハウリング(ピーという音が出ます)を起こします。これはスピーカーから出ている音がマイクロホンに入るため起こる現象です。ハウリングが起きたら次のようにしてみてください。
1.マイクロホンの向きを変えるか、スピーカーからなるべく離す。
2.マイク音量調節つまみでマイクロホンの音を小さくするか、音量調節つまみで全体の音を小さくする。
3.単一指向性のマイクロホン（まわりの音が入りにくいマイクロホン)を使用する。

小音量でマイクミキシングするときは
マイクミキシングをするとき、音量を小さくするとスピーカーから聴こえる自分の声も小さくなり、ミキシングしにくくなることがあります。このようなときはヘッドホンを使いますとマイクミキシングがやりやすくなります。

留守録音

①カセットテープを入れます。
②アンプ、チューナー、カセットデッキ、グラフィックイコライザーの電源を入れ、希望の放送局を受信し、イコライザー調節つまみ、録音レベルを調節します。
③タイマーを希望の時刻にセットします。
（時刻のセットのしかたはタイマーの取扱説明書をご覧ください。)
④カセットデッキのタイマースイッチを〝REC〞の位置にします。(D-W700ではモード4(▬▬)にします。)
⑤アンプの音量調節つまみを最小にします。
⑥セットした時刻になると自動的に録音を開始します。
●留守録音が終わったら、カセットデッキのタイマースイッチを〝OFF〞にしてください。(D-W700ではモード1(□□)またはモード2(□▬)にしてください。)

タイマー再生(目覚まし再生)

①アンプ、グラフィックイコライザーとタイマー再生する機器の電源を入れ、タイマー再生の音量を決めます。使用しない機器の電源は切っておいてください。
②タイマーをご希望の時刻にセットします。
③タイマー再生する機器をセットします。
(3-1)テープ再生をしたい場合は、カセットデッキのタイマースイッチを〝PLAY〞の位置にします。(D-W700ではモード3(▬□)にします。)
(3-2)レコード演奏を行いたい場合は、プレーヤーのアームリフターボタンを押してトーンアームを上昇させ、演奏を開始したい位置にセットします。
(3-3)放送を受信したい場合は、聴きたい放送局に合わせておきます。
④セットした時刻になると自動的にタイマー再生が始まります。
●テープによるタイマー再生を行なったときはタイマー再生後、カセットデッキのタイマースイッチを〝OFF〞にしてください。(D-W700ではモード1(□□)または2(□▬)にしてください。)

D-W700の操作

D-W700は2つのカセットテープを同時にセットして専用のマイクロコンピューターにより自動的に編集ダビング、ミキシング等のテーププレーができるダブルカセットデッキです。これを組み合わせると11～13ページで説明しました基本的な使い方の他に次のような使い方ができます。

1.再生
TAPE-1、TAPE-2どちらでも再生できます。アンプのテープスイッチをONE-TOUCH(□)にして、ワンタッチ操作するときの優先順位はカセットテープの入っている方です。両方に入っているときはTAPE-1が優先します。
TAPE-1はオートテープセレクター方式になっており、さらにオートリワインドプレー、メモリーリワインドプレー、4種類の自動選曲ができますので、通常の再生時はTAPE-1を使用すると便利です。

2.録音
録音にはTAPE-2を使用してください。アンプのテープスイッチをONE-TOUCH(□)にして、レコードの自動録音ができます。
●TAPE-2で録音開始後もう一度アンプのファンクションボタンTAPEを押すと、TAPE-1が動作して4.で説明するミキシング録音になります。

3.ダビング
TAPE-1を再生してTAPE-2に同じ録音ができるテープダビングができます。ダビング時の操作はカセットデッキ側で行います。
●ダビング中は、アンプのテープスイッチがONE-TOUCH(□)になっていてもアンプからワンタッチ操作はできません。
●アンプのテープスイッチをMONITOR LOCK(▬)にして、グラフィックイコライザーのテープモニタースイッチをON(▬)にするとダビングの音をモニターでき、OFF(□)にすると他のソースの音を聴くことができます。
●グラフィックイコライザーを接続していないときは、アンプのテープスイッチをONE-TOUCH(□)にしておくとダビングの音をスピーカーでモニターできます。他のソースの音を聴くときは、アンプのテープスイッチをMONITOR LOCK(▬)にしてもう一度ONE-TOUCH(□)に戻してください。再びダビングのモニターをするときは、MONITOR LOCK(▬)にします。
●ダビングの音をモニターしながらTAPE-2を録音一時停止にすると、TAPE-1の再生音とソースの音がミキシングされて聴こえることがあります。このようなときは録音レベル調節つまみを左一杯に回しておいてください。録音レベル調節はダビング時の録音レベルには関係ありません。
●グラフィックイコライザーを通してダビングすることはできません。

4.ミキシング
TAPE-1の再生音にデッキのマイクロホン、またはデッキの録音入力をミキシングして、TAPE-2に録音することができます。
通常のマイクミキシングを行うときは、アンプのマイクロホンジャックを使用してください。
TAPE-1の再生音をバックにマイクミキシングするときはマイクロホンのみを使用する状態にして(14ページ参照)TAPE-1とミキシングできます。さらにミキシングした音をTAPE-2で録音することができます。
●TAPE-1の再生音を、グラフィックイコライザーを通してミキシングすることはできません。

ご注意
TAPE-1、TAPE-2ともにカセットテープを入れてカセットデッキのTAPE-2側を操作したとき、TAPE-1側が誤動作することがあります。このようなときは、STOPにしてもう一度ゆっくり確実にボタンを押してください。

ご使用上の注意

- 電源スイッチをONにした直後にアンプのファンクションボタンを押すと各機器が正常に動作しないことがあります。ONにしてから約5秒程度待ってから操作してください。
- 放送の録音など長時間録音するとき、テープが終わるとカセットデッキは止まりますが、アンプの表示は録音状態のままになっています。録音するソースの時間とテープの残量に注意してください。
- ツメが折ってあるカセットテープを入れて録音操作を行いますと、アンプの TAPE ボタンは赤色に点灯しますが、録音はされません(再生状態になります)。テープを入れるときに、ツメを確認してください。
- テープの早送りまたは巻き戻しを行なっているときに、アンプのファンクションを TAPE から他のファンクションに切り換えると、テープは止まることがあります。もう一度、早送りまたは巻き戻しの操作を行なってください。
- アンプの PHONO ボタンが点滅しているときは、ミューティング回路が動作しているため、スピーカーから音は出ません。
- レコードの繰り返し演奏を行なったとき、2回目以後の演奏開始時にはミューティング回路が動作しません。
- 電源スイッチをONにした直後(約10秒以内)に、スイッチや音量調節つまみなどを動かしますとスピーカーやヘッドホンから雑音が出ることがありますが、これは故障ではありません。
- 誘導ハム(ブーンという音)が気になるときは、電源プラグを逆に差し込むとハムが小さくなることがあります。
- テレビのすぐそばにステレオを設置すると、テレビの影響を受けて雑音が多くなることがあります。
- アンプのマイクロホン端子を使用してマイクミキシングしているときは、ハウリング防止のためグラフィックイコライザーの効果はバックのソースに比べて少な目になるようにしてあります。

あなたが録音したものは個人として楽しむなどの他は、著作権法上、権利者に無断で使用できません。

保護回路について

安全性を追求した次のような保護回路が採用してあります。

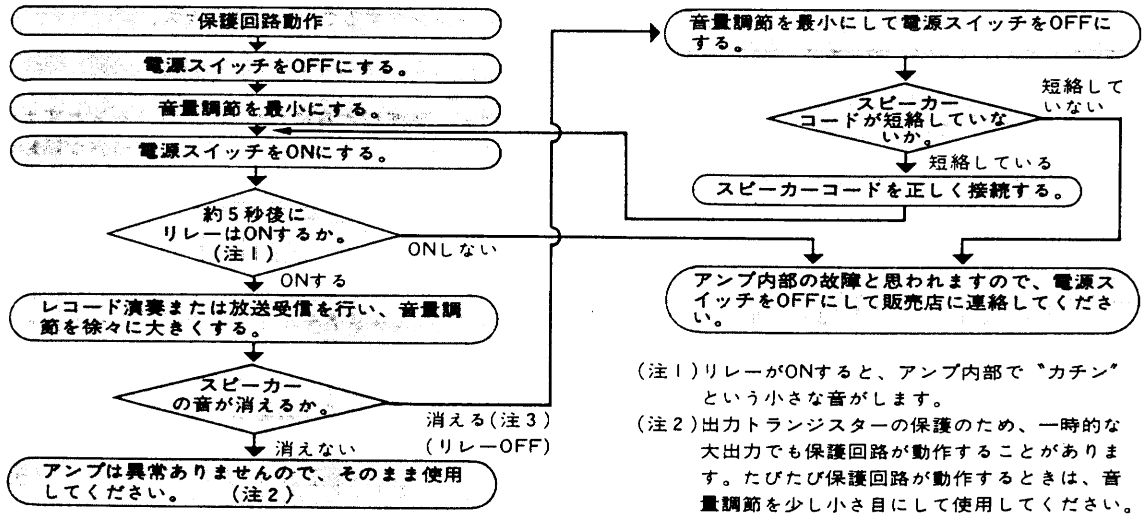
■出力トランジスターの保護

スピーカー端子を短絡させたときや、負荷インピーダンスが低い状態で(間違って4Ωのスピーカーを接続したときなど)使用したときに、出力トランジスターを保護するため、リレーが動作し音が出なくなります。

■スピーカーの保護

スピーカーに直流電圧が加わるとスピーカーをいためますので、アンプの出力に直流電圧が発生したときにリレーが動作して、スピーカーを保護します。

保護回路が動作したときの処置方法



(注1)リレーがONすると、アンプ内部で〝カチン〟という小さな音がします。
(注2)出力トランジスターの保護のため、一時的な大出力でも保護回路が動作することがあります。たびたび保護回路が動作するときは、音量調節を少し小さ目にして使用してください。
(注3)スピーカー端子を短絡した状態で音量を大きくすると、約5秒おきにリレーが一瞬ONします。

故障かな?と考える前に

正常に動作しない場合は、下表により点検してみてください。システムとして組み合わされている各機器も含めたトラブルを記載してあります。
下表のようなことをお調べのうえ、それでも具合が悪い場合はご自分で修理なさらないで、お買い求めの販売店にご連絡ください。

アフターサービスをお申しつけいただくときは、次のことをお知らせください。
①形名：HA-M50A
②症状：できるだけ詳しく
③道順：付近の目印も

	症状	原因または処置
レコード・放送・テープのとき	**電源スイッチを入れてもパワーレベルインジケーターが点灯しない。**	●電源コードのプラグがコンセントに確実に接続されていない。
	音が出ない。	●スピーカースイッチがOFF(▬)になっている。 ●スピーカーコードが確実に接続されていない。 ●各機器が確実に接続されていない。 ●保護回路が働いている(16ページ参照)。
	各楽器の音の位置がはっきりせず、低音が出ない。	●スピーカーコードの+、−の接続が間違っている。
	ファンクションが自動的に切り換わらない。	●制御信号コードが確実に接続されていない。 ●アンプのテープスイッチがMONITOR LOCK(▬)になっているとテープは自動的に切り換わりません。
レコードのとき	**〝ブーン〟という音(ハム)が出る。**	●プレーヤーの出力コードが確実に接続されていない。 ●プレーヤーのアースコードが接続されていない。 ●ヘッドシェルの取り付けが不完全。ヘッドシェルをトーンアームに確実に挿入し、コネクタースクリューを締める。 ●プレーヤーの近くにアンプやカセットデッキがあるため、影響を受けている。アンプやカセットデッキなどをプレーヤーから離すか、配置を変えてみる。
	〝ワーン〟という大きな音がする。(ハウリング現象)	スピーカーの振動がプレーヤーに伝わって起こる現象です。 ●プレーヤーがラックなどに触れていたら離す。 ●プレーヤーを収納したラック(またはプレーヤー)とスピーカーシステムの間を離し、それぞれを振動しにくい場所に置く。 ●アンプの音量調節や低音調節を下げる。
	音がひずむ。〝チリ・チリ〟という音(スクラッチノイズ)が出る。音がとぎれる。	●針先にほこりがついている。 ●針が摩耗している。 ●針圧が適切でない。 ●トーンアームのアンチスケーティングの調整が適切でない。
	オートイン動作をしない。または、間違ったサイズの位置にオートインする。	●ターンテーブルシートの凸部がターンテーブルの穴に入っていない。 ●透明または半透明の着色レコードやフォノシートおよびそりの大きいレコードは、手動で演奏してください。 ●プレーヤーに直射日光や強い光が当たっている。
	オートイン動作はするが、針先がレコードの上に降下しない。	●トーンアームが上昇した状態になっていたら、アームリフターボタンを押して降下させる。
	オートイン動作で針先降下位置がずれる。	●針圧が指定より小さすぎる。 ●アンチスケーティングの調整が指定より大きすぎる。 ●針先降下位置の調整が適切でない。
	ターンテーブルの回転が止まらない。	●直射日光や強い光が当たっている。 ●トーンアームがアームレストからはずれている。

	症　状	原因または処置
放送のとき	プリセットした内容が消えている。	●チューナーを長期間使用しないとプリセットした内容が消えることがあります。もう一度、プリセットしてください。
FM放送のとき	“ブッ・ブッ”、“ザザー”という音がときどき出る。	●自動車、オートバイのエンジンなどによる雑音です。FMフィーダーアンテナを使用している場合は、FM屋外アンテナを道路からなるべく離して設置してください。
	“ザー”という音が出る。 特にステレオ受信時にめだつ。	●アンテナ端子の入力電波が弱いためです。FMフィーダーアンテナを使用している場合は、FM屋外アンテナを設置してください。
AM放送のとき	放送がきれいに受信できない。	●AMループアンテナのコードが確実に接続されていない。 （AM外部アンテナを接続しても、ループアンテナの接続は、はずさないでください。）
	“ジー”という音が出る。 特に夜間や電波の弱い局ほど大きい。	●AMループアンテナの近くにある電気器具(テレビ、蛍光灯など)の電源を切ったとき、雑音が消えるときは、その器具からAMループアンテナを離してください。
	“ブーン”という音(同調ハム)が出る。	●チューナーの電源プラグの差し込みを逆にすれば直ることもあります。
チューナーのボタンを操作したとき	ボタンに触れたら、ルビーポインターが正しく動作しなくなった。	●静電気により、マイクロコンピューターが誤動作したためです。電源プラグを一度電源コンセントから抜いて5秒以上経過してから電源コンセントに確実に差し込んでください。
	ボタンに触れたらプリセットに記憶させた内容が変わった。	●静電気により、マイクロコンピューターが誤動作したためです。プリセットをやり直してください。
	自動選局のとき、ルビーポインターの表示が止まらず、音も出ない。	●FMアンテナの接続がはずれている。 ●アンテナ端子の入力電波が弱いためです。FMフィーダーアンテナを使用している場合は、FM屋外アンテナを設置してください。それでも自動選局できないときは、手動選局を行なってください。
テープのとき	テープが回らない。	●カセットテープが確実にセットされていない。 ●一時停止の状態になっている。
	録音できない。	●カセットテープのツメが折れている場合は、穴をセロハンテープでふさぐ。 ●録音レベル調節つまみが最小になっている。 ●アンプとテープデッキの接続が不完全。
	音質が悪い。 （音がひずむ・高音が小さい・雑音が多い）	●ヘッドが汚れている。 ●テープ切換スイッチが合っていない。 ●ドルビーNRスイッチが合っていない。
	音がふるえたり、とぎれたりする。	●テープがいたんでいる。 ●テープ走行面(ヘッド・キャプスタン・ピンチローラー)が汚れている。
	消去できない。	●カセットテープのツメが折れている場合は、穴をセロハンテープでふさぐ。 ●録音レベル調節つまみが最小になっていない。 ●テープ切り換えスイッチが合っていない。

仕様

★仕様およびデザインは改良のため予告なく変更することがあります。

実効出力	60W＋60W （40Hz～20kHz、8Ω、両チャンネル駆動、0.1%ひずみ率）
全高調波ひずみ率	0.03%（30W出力時、8Ω、1kHz）
混変調ひずみ率 （60Hz:7kHz＝4：1）	0.05%（30W出力時、8Ω）
出力帯域幅	10Hz～40kHz （ひずみ率0.1%、30W出力時、8Ω）
周波数特性	
PHONO（RIAA偏差）	30Hz～15kHz±0.5dB
TUNER、DAD/AUX	20Hz～50kHz＋0.5、－3dB
TAPE PLAY	20Hz～50kHz＋0.5、－3dB
負荷インピーダンス	
スピーカー端子	8Ω～16Ω
ヘッドホン端子	4Ω以上
入力感度／インピーダンス	
PHONO	2.5mV/45kΩ
TUNER、DAD/AUX	180mV/40kΩ
TAPE PLAY	200mV/45kΩ
MIC	1mV/10kΩ
EXT. MIC	500mV/10kΩ

PHONO最大許容入力	120mV （1kHz、0.2%）
SN比 （IHF Aネットワーク）	
PHONO	72dB
TUNER、DAD/AUX	90dB
TAPE PLAY	90dB
MIC	60dB
EXT. MIC	60dB
トーンコントロール	
BASS	±8dB（100Hz）
TREBLE	±8dB（10kHz）
ラウドネス （音量調節－30dB）	＋6dB（100Hz） ＋4dB（10kHz）
電源	AC100V、50/60Hz共用
定格消費電力	110W（電気用品取締法）
補助電源コンセント	電源スイッチ連動3個、最大150W（合計）
外形寸法	幅435×高さ110×奥行299mm （つまみなどの突起を含む）
重量	6.3kg
付属品	制御信号コード…………1 （カセットデッキ用）

本機を使用できるのは日本国内のみで、外国では使用できません。

アフターサービスと保証

■転居後のアフターサービスについて

ご転居により、お買い求めの販売店のアフターサービスを受けられなくなる場合は、前もって販売店にご相談ください。

ご転居先での日立の家電品取扱店を紹介させていただきます。

■保証について

●この商品は保証書付きです。
保証書は、販売店で所定事項を記入してお渡ししたしますから、記載内容をご確認いただき、大切に保存してください。

●保証期間は、お買い上げの日から1年間です。
なお、保証期間中でも有料になることがありますので、保証書をよくお読みください。

●保証期間経過後の修理については、販売店にご相談ください。
修理によって機能が維持できる場合は、お客様のご要望により有料修理いたします。
当社は、販売店からの注文により、補修用性能部品を販売店に供給します。

■部品の保有期間について

ステレオの補修用性能部品の最低保有期間は製造打切後8年です。この期間は通商産業省の指導によるものです。性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。

■アフターサービスなどでお困りの場合は

アフターサービスについてご不明の場合、その他お困りの場合は、お買い上げの販売店か別紙（黄色用紙、「ご相談窓口一覧表」）のご相談窓口にお問い合わせください。